



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第38号

発行日
平成21年 12月1日

目次

- | | | | |
|----|--------------------------|-----|------------------------|
| P2 | インタープリテーション研修 | P6 | 宮島二流記 (その3) |
| P3 | 入浜池定点観測(夏~秋) | P7 | 樹木名板・紅葉谷公園清掃 |
| P4 | 秋吉台PVと交流・親睦旅行 | P8 | ハチクマの渡り・三高砲台山 |
| P5 | JICA 研修生宮島へ
瀬戸内海水環境調査 | P9 | 10周年記念行事・編集後記 |
| | | P10 | 事務局連絡事項
行事参加状況、行事予定 |



ミヤジマトンボ

「小さくて、華奢!!」これが最初の印象でした。事前に同属他種と机上比較していたのですが、数字以上にそう感じました。写真の個体は半成熟くらいのオスでしょうか。スカイブルーの複眼、翅胸や腹部にまとった蒼白色の粉と明るい黄緑の地色とのコントラストがとても美しいです。動きは決して機敏でなく、飛び上がってもすぐに近くに静止。写真

もしっかり撮らせてくれた・・・人懐っこいなあ!?

こいつが、この小さな神の島のごく限られた環境だけで、脈々と命をつないでいるなんて、それこそ神がかり的なものを感じますね。進みつつある地球規模の気候変動の影響を、真っ先に受ける場所の1つが海岸線と言われます。この愛嬌ものが将来も棲み続けられるよう、少しでも力になりたいと思っています。

(写真・文: 松田 賢)

古瀬浩史さん

を招いて宮島で

インタープリテーション研修会

「インタープリテーション（自然解説）」一般にはあまり知られていませんが、PV で環境省の自然解説指導者研修に行った方なら、覚えている方も多いでしょう。今回（社）瀬戸内海環境保全協会が環境省の補助により、各府県を通じて行う「瀬戸内海環境保全普及活動推進事業」の助成を確保し、全国レベルの事業が宮島で実現しました。（松尾 健司）

日 時 8月22日（土）9:20～17:30

参加者 足立 井上 岩崎 小方（嗣） 小川
北野 小林ペア 佐渡 坂本 島 末原
富田 中道 平田 舛田 松尾 松田
村上 環境省 広瀬 AR

広島県環境保全課 山根 金谷

講師（株）自然環境研究センター古瀬浩史氏

・前日の下見

古瀬さんは、全国でも数少ない海辺の環境教育の専門家です。前日に実際のフィールドを確認して詳しい研修内容を組み立てていただきました。（会員10人と広瀬ARが同行）

・オリエンテーションと講義

参加者は宮島市民センターに集合し、会長の挨拶の後、古瀬さんからインタープリテーションの歴史、理念や手法についての講義を受けました。国内外における自然体験活動の変遷等について、ご自身が実践された際のエピソード、さまざまな道具や実物の資料を交えながら楽しくお話しくださいました。

グループワークでは、「ウニのクリのイガ」と「ブナの葉の葉脈」について、思い出しながら描きながら、日頃私たちがどう「みて」



古瀬講師



要害山での屋外研修

いるか、考えました。ノートにはさんであった実物を持ち出す反則には古瀬さんも驚き、会場は爆笑で大いに盛り上がりました。

・屋外研修 要害山

講義の途中、屋外にて「はっぱ じゃんけん」等を体験しました。若干、風があり「どっかに飛んでいった！」という悲鳴が笑いを誘いました。いつも使う場所での楽しい手法を習うことができたのではないのでしょうか？

・屋外研修 大元公園付近

お昼休憩に古瀬さんの著作資料を見たり、個別に質問に答えたりいただいたりした後、大元公園休憩所に移って、海の中の生き物についての講義と海辺の生き物採集です。まずは松田会員が胴長を着てネットでプランクトン採集。海食物連鎖やネクトンやベントスなどの存在、赤潮などについて考えながら、干潟や浅瀬でカニや貝、魚類などを採集しました。広瀬ARはヨウジウオをGet！カメノテ等も見つかり、宮島が大都市の側の豊かな自



研修会参加者

然環境であることを裏付けました。

今回は単に採集するだけでなく、海について参加者が主体的に、気づき、考えるためにどう「伝えるか」を理論や実践を通じて学ぶことができました。

・個別相談等

終わった後は桟橋近くの藤棚の下で、古瀬さんを囲んで軽い食事をしながらの「青空教室」が暗くなるまで続きました。古瀬さんは

インタープリテーションについての国内屈指の指導者ですが、私たちの活動や宮島に関するローカルな話題も丁寧に聞いてくださり、本当に優れた指導者だからこそ、親しみやすい雰囲気です。人をひきつけるんだな、と感じました。東京に帰られてすぐに、小川さんにお礼のメールを送られたそうです。お世話になったのは、私達なのに・・・

・古瀬さんからのコメント

皆さん明るく元気で、世代を越えて活動されていて、素晴らしいと感じました。

研修会も熱心に聞いていただき、話題を提供する方としても楽しかったです。

今度研修会を行うなら、参加者の皆さん自身が解説を行ってみるような実習がいいかなと思います。

入浜池定点観測 夏～秋

日 時 8月29日(土) 9:30~13:00

参加者 小川 小林み 佐伯 富田 中道
舛田 松田 村上 六重部

今回も植物班、水生生物班、水質班に分かれて調査しました。なお当日の地勢情况等を勘案し、水路整備は取りやめました。

昼食後、各班から調査概況をそれぞれ紹介しました。

植物班：入浜の西際にある懸案の大木は、うまい按配に実がたわわに実り、ムクロジ(ムクロジ科)と同定されました。

入浜汽水池内に侵入し、前回取除いた特定外来植物「オオフサモ」はその痕跡も見当らず、うまく除去できた模様です。

水生生物班：当日観察したトンボは、マイコアカネ、ショウジョウトンボなど12種 残念ながら今回、新しいトンボはなし。これまでに観察したトンボ種数は27~28です。

水質班：前回見られた池の水の濁りはあまりなかった。池から水路へ出る水量を簡易方法で測定(推定)しました。あいかわらず流入水が少ないのが気懸かりです。

帰路は、今後 H22/3 の公募観察にそなえ、

事前の植物観察とルート下見を鷹ノ巣高砲台ルートを中心に行いました。ここもすばらしい観察ルートになると思います。

(村上 光春)

日 時 10月18日(日) 9:30~13:30

参加者 池下 岩崎 小林ペア 中道 舛田
松田 村上 横路 六重部

水質調査：今日は大潮、海水の流入は途中で止まり池まで到達しませんでした。池の水位は低く、水質調査ができない地点がありました。また調査結果で塩分濃度がいつもより高いことが気になりました

植物観察：シロダモが鮮やかな赤い実をたくさんつけています。なかにキミノシロダモと思われるオレンジ色の実があり、今後も観察を続けます

池にヒトモトススキが増えたように思われます。また特定外来生物のオオフサモは姿を消していました

環境整備：池周辺全体にゴミが多い。大型ゴミは集められなかったが、調査コースのゴミを拾いました。

トンボ観察：確認できたトンボはネキトンボ・マユタテトンボ・タイリクアカネ・リスアカネ・アオモンイトトンボ・マイコアカネ・ノシメトンボ・ギンヤンマ・ショウジョウトンボ・ナツアカネ、ネキトンボは、この場所では初めてです

その他：サツマニシキ(蛾)、ノゴマ(渡り鳥) ノビタキ・トンビ・ミサゴ・コゲラ・セグロセキレイ・シジュウガラ・カラス

山水の流れから：スジエビ・ヨコエビ、カワトンボ・トビゲラ・カワゲラの幼生

(舛田 祐子)

(新着図書紹介)

今般次の図書5点、環境省で購入していただき宮島詰所で保管しています。

ワシタカ類 飛翔ハンドブック 山形則男

タカの渡りを楽しむ本 久野公啓

環境白書 平成21年版 環境省

環境白書 2009年版 環境省

こども環境白書 2009年版 環境省

秋吉台PVと交流

会員親睦旅行 野呂田 恵子

昨年に続き今年も9月12,13日と一泊二日の予定で会員親睦旅行が行われました。

今年は秋吉台のエコツーリング体験、秋吉台の秋の自然を思いっきり楽しもうという計画で、秋吉台PVの会と宮島PVの会、交流も盛り込んでの旅行となりました。

午前8時、集合場所の宮島口を出発、車の中は座いすがコの字に並んで、みんなの顔を見ながら話せるので、盛り上がり、あいにくの雨が少しも気になりません。車もスムーズに走り、別府弁天池に立ち寄ることになりました。たっぴりと青い水を湛える弁天池は水底まで透き通って、とてもきれいなコバルトブルーです。弁天池の傍らには安芸の宮島よりご祭神を勧請して、水の守護神とした、別府厳島神社が建立し、例祭には念仏踊りの奉納を続けているということで、宮島とのつながりが見えて興味深く見学しました。



(左から庫本さん(秋吉台) 舛田、中道、野呂田、佐藤、島、村上、末原、足立、木島さん(秋吉台) 尾川さん)

秋芳洞観光センターで顔合わせ会のあと、地元の食材を使った秋吉台PV会員の手作り料理、変りチキンカレーを一緒に食べながら、お互いのPV活動状況や悩みなどを話し合いました。洞窟探検のビデオ観賞をし、外に出ると雨も上がり、石灰岩柱が並ぶカルスト台地特有の雄大でダイナミックな秋吉台の景色が一面に広がり、息をのむような美しさです。

そしていよいよ東洋屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」に入ります、エレベーターで下りると、まず最初に目にしたのは黄金柱、続いて岩窟王、棚田を思わせる百枚皿など次から次へと現れる神秘的な自然の造形美に思わず感動しました。また洞窟内の暗黒の世界に適応したキクガシラコウモリやアキヨシチビゴミムシなど秋芳洞を50年研究されている庫本さんと木島さんに詳しく説明していただきながら探検し、観光旅行では知ることができない体験ができました。

ホテルは秋吉台を一望できる展望台のすぐ近くでホテルのすぐ下はドリーネと呼ばれる凹地になっています。見事な景色と豪華な食事に大満足しながら床につきました。

あくる朝は見事な秋晴れとなり秋吉台PVの会が実施されている若竹山の自然歩道の修復場所を庫本さん、木島さんの案内で見学しました。秋吉台は明治の頃から陸軍の演習地として利用され、戦後は米軍や自衛隊が演習を続け、戦車や重車両が通って、自然が傷つけられ、荒れ放題だった道を修復し、土壌から改良し、芝草を生やそうとしたのが始まりで、11年前から活動されていますが、自然相手の作業は大変で道は長く、相手は手強く、なかなか思うようにいかないようです。



黒岩湧水での流しそうめん

お昼はこんこんと湧き水が流れる「黒岩湧水」での流しそうめんと秋吉台PV会員の心づくしの料理です、すすめ上手の言葉に乗って、お腹に十二分になるまで食べてしまいました。

昼食後は良悟松の看板の所から自然観察に

向かいます。澄み渡った空と見渡す限り広がる緑の草原、さわやかな風が吹くなか、ちょうど秋の七草が咲揃い、気持ちがい散策となりました。

観察会の後は会員こだわりのおいしいコーヒーをいただき、お世話になった秋吉台 PVの方とお別れし、話題の角島大橋まで足を伸ばし帰路につきました。盛りだくさんの旅行で予定時間をかなりオーバーしましたが、全員無事広島に帰ってきました。お世話下さった舛田さんは、大変だったこととあらためて感謝します。

楽しく多くのことを学べ有意義な2日間でしたが、来年はもっと多くの会員の参加があればいいなあと思っています。

JICA研修生宮島へ

今年も「観光振興と環境保全」を学ぶ JICA 研修生が 10 月 15 日（木）来島しました。

宮島ボランティアの会も、宮島で活動する環境保全組織のひとつとして、その研修の一端とインタビューに協力しました。

研修生は、ボスニアヘルツェゴビナ、コロンビアなど 11 ヶ国 12 人、殆どが政府の若手行政官です。研修は 8 月から 2 ヶ月あまり、東広島、宮島を拠点に、京都、高山など日本の素晴らしい観光地も実地見学しながら行われました。

そして「研修成果報告と宮島への提言発表」が 10 月 26 日（月）宮島学園で開かれ、当会からも関係者が出席しました。

出席者 10/15 村上
10/26 村上、井上

観光立国は、開発途上国の国興しの有力な施策のひとつです。カンボジアのアンコールワット、エジプトのピラミッドなどはその好例です。しかし、「観光」と「環境」とは裏表の関係にあります。「観光振興と環境保全」とを如何に調和させるかが、施策の腕の見せ所といえます。このような観点から、当会から国立公園の自然保護と利用を目指した自然観察学習会や環境啓発活動の計画・実施状況について紹介しました。

蛇足ながら、彼らの大きな関心事は、

会員のボランティア（無料奉仕）へのモチベーションの源と 会の活動資金の拠りどころ。昨年と全く同じでした。（村上 光春）

瀬戸内海水環境調査

10 月 17 日（土） 宮島大砂利海岸

参加者 小方嗣 小川 小林ペア 中道 舛田、

10 月 18 日（日） 広島元宇品海岸

参加者 小方ペア 富田

瀬戸内海水環境等調査とは、地域の水環境を簡単に把握できるモニタリング調査手法を確立し、普及するための広島県が実施する事業です。

宮島 PV の有志がボランティア調査員として参加してきたこの調査も今回で終了です。大砂利調査では、初めて、ケガキ（きれいな海の指標生物のひとつ）を確認しました。

3ヶ所で、各1個体ずつ発見！宮島で初めての大発見かもしれません。（写真の中央）



この3年間、調査員として協力させていただきながら、水質や季節の変化、生息場所に応じて色々な種類の海岸生物が生きていること、言い換えると、多様な環境に多様な生物のいることの大切さを学ぶことができました。

今回の調査の最後には、県環境保全課や事業委託会社の方々と活発な意見交換があり、PVからは、この調査が有意義であったことと、環境保全のためには、県による市民参加のモニタリング調査の重要性と継続を望む意見が出されました。（小川 加代）

これまでの調査については次の HP で見れます。
[広島県の環境情報サイト「ecoひろしま」](#)
[瀬戸内海の窓 生物調査 瀬戸内海水環境等調査について](#)

宮島二流記 (その3)

平田 広三郎

Q3:「宮島にちなんだ星はあるでしょうか？」

本題のきっかけは、私が未だ勤め人だった頃 JR 西広島駅近くのおデン屋で、年に一度程度偶然に出会う「天文学者 廿日市市在住の佐藤 健(たけし)」先生に冊子を送っていただいたからです。

A3:「あります」

星の名前を出す前に「星」と「星の命名」について記しておきます。

星の種類は、「恒星」と「惑星」、「小惑星」、「彗星」、「流星群」・・・などに分けられます。「恒星」は、星のほとんどが属しますが、太陽と同様に自らが激しく発熱し光り輝いているもので、太陽と違ってあまりにも遠くにあるので小さな点にしか見えないのです。地球から見たときの天球上の位置をほとんど変えないため、「恒(つね)にそこにある星」という意味で名付けられています。また 光り輝くものという意味で、英語の「STAR(スター)」が人気のある歌手や役者を指すのはご存知のとおりです。「惑星」は、小さい頃「水・金・地・火・木・土・天・海・冥王」と憶えた星(この場合は太陽系)のように、恒星(太陽)の周囲を主に恒星の重力の影響を受けて回りながら太陽の光を反射して光っている星です。ただし 冥王星は 2006 年 8 月に太陽系における惑星から除外されました。「小惑星」は、火星と木星の軌道の間であり、太陽の周りを回っている前記太陽系の惑星より小さなたくさんの星で、本題の対象となる星のことです。小惑星の名前については現在天体(星)の中で唯一、発見者に命名権が与えられています。

天体(星)の命名は、世界の天文学の最高機関である「国際天文学連合(IAU)」(本部: フランス・パリ天文台、小惑星センター: 米国・スミソニアン天文台)が行います。その過程は、新天体と思われる天体を 2 夜以上にわたって位置観測し、その観測結果を小惑星センターに報告すると、発見順に仮符号が与えられて既知の天体との軌道の同定作業が行わ

れ、軌道が確定して新天体だと確認されると小惑星番号が与えられます。その後 発見者によって提案された新小惑星の名前が IAU の小天体命名委員会において、所定の基準に照らして審査・命名されます。2009 年 7 月現在、軌道が確定して小惑星番号が付けられた天体は 216,916 箇にのぼりますが、未発見のものがまだ数十万箇あると推測されていますので皆さんも挑戦されたいかがですか。なお 彗星の場合は発見者の名前をそのままその天体の名前にすることになっています。

さて 宮島にちなんだ星(小惑星)は、1960 年 10 月 17 日パロマー天文台のシュミット望遠鏡でゲールス博士が撮影した写真からライデン天文台のファンハウテン博士夫妻によって発見されたもので、肉眼では見えない直径 5~6km ぐらい(宮島の周囲を 32km とすると直径約 10km となり半分程度の大きさ)のもので、この小惑星名は前述の佐藤 健からの依頼によるゲールス博士によって提案され、1998 年 8 月 8 日発行の小惑星回報で(7852) Itsukushima (厳島)と命名されたことが発表されています。命名の依頼に際して佐藤は、日本三景の一の厳島としてまた神社の島として提案したとしています。その他広島県関係では、(2247) Hiroshima (広島: 世界平和の象徴として佐藤 健の依頼)、(7826) Kinugasa (衣笠: 鉄人と言われたカープの元野球選手)、(9235) Shimanami (しまなみ海道)、(10163) Onomichi (尾道)などの他個人名のもので多数あります。

今年是世界天文年(イタリアのガリレオが望遠鏡を作り、天体観測をしてから 400 年)、日本では 46 年ぶりの皆既日食(次に見られるのは 26 年後の 2035 年)、10 月のオリオン座流星群の出現等の天文ショーがありました。

また 2003 年に打ち上げられた探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワからサンプルを採取して 2010 年 6 月に地球へ世界初の快挙として帰還する予定です。

次回 Q4: は「ばくち尾は何か意味があるのでしょか？」です。

参考文献

「広島に関係する小惑星名」私家版
山陽女子短期大学非常勤講師 佐藤 健

樹木名板点検・補修

日 時 9月26日(土) 9:00~12:00

参加者 足立 池下 井上 岩崎 小方

奥田 川崎 小林み 佐伯 末原 田中

中道 前田 舛田 丸平 森 柳瀬

横路 六重部 広瀬 AR

樹木名板点検、取り付け作業のため、棧橋
—うぐいす道—紅葉谷、大元公園—紅葉谷の
2コースに10名ずつ2班に分かれ出発。

1、樹木名板取り付け整備の概要

(1) 昨年までに整備した樹木名地図と現地現
物の照合

(2) 次落名板
の取り付け

(3) 補充名板
のない樹木
への識別用
番号ラベル
の貼り付け

(4) 汚れた名
板を濡れ雑
巾で清掃



名板取替え作業の広瀬 AR

2、大半の名

板は良好で、観光客等に樹木名が容易に識
別・理解できる状態に維持されていた。しか
し中には、名板を取り付けた木が枯れていた
り、樹木自体が消滅していたり、名板が裏返
し、割れ、取り付け

釘の樹木への食い込
み等も散見されたが、
臨機応変の処置で来
年の作業に接続した。

3、11時30分、2
班は紅葉谷公園で合
流し、本日の作業は
終了した。季節外れ
の暑さと蚊との戦い
の中、急斜面や高所
での作業が多々あっ
たが、事故もなく無
事終了し、午後から
の中国四国地方環境



紅葉谷公園清掃の参加者

事務所主催の「ミヤジマトンボ保護・現況調
査報告会」に参加した。

(佐伯 宣雄)

紅葉谷公園の清掃

てんぐ巣病のサクラ枝切除

日 時 10月24日(土) 9:00~12:00

参加者 井上 小川 川崎 小林昂 佐伯

渋谷 末原 田中 富田 中道 平山 前田、

舛田 宮崎 柳瀬 横路

紅葉谷公園の藤ノ棚のサクラの樹木に発生
している「てんぐ巣病」の枝を高枝ノコギリ

で切除し、焼却
場へ運搬する作
業と公園の園路
及び側溝の清掃
とマスの砂上げ
を行いました。

今回初めて行
ったサクラてん
ぐ巣病は、枝に
発生し、ほうき
状に伸びる病気
です。放置して
おくと、周りの
木に伝染して木

が弱り花が咲かなくなり、やがては枯れてし
まいます。防除法は、枝を切除し焼却の方法
しかありません。 (末原 義秋)



てんぐ巣病の切除作業

ハチクマの渡り

佐伯運動公園で観察会

日 時 9月18日(金) 9:00~12:00

参加者 岩崎 奥田 川崎 近藤 佐伯
富田 平田 舛田 村上 横路

今年は宮島の対岸の極楽寺山の麓にある佐伯運動公園で観察会を行なった。曇りながら、所々青空も見える爽やかな秋の一日。講師の近藤会員から、鷹類の特徴や観察について聞いた後、まず佐伯会員のアドバイスで双眼鏡の事前調整を行い、期待を胸に空を見上げる。約30分後に、眼の良い奥田会員の「飛んでいる！」の声の方向に双眼鏡を向けると山の端近くを、1羽2羽ハチクマがゆっくり弧を描いて、また山の向うへ消えた。しばらくすると10羽余りの群れが、南の空へ旅立つ機会を伺うかのように、高く低くゆっくりと旋回する。翼の縞模様もはっきりと見える。上空を東から西へと通過する渡りの群れは観られなかったが、2時間余りの間に数度にわたってハチクマを観察する事が出来た。

本日の観察数は132羽。会員から「渡り鳥の観察マップを作っては・・・」の声も出た。安全で過ごし易いとして選んだこの場所に、ハチクマが来年もまた飛来することを願った。(横路 晃)



平田さん撮影のハチクマ

三高砲台山観察会

日 時 10月31日(土) 9:00~16:00

場所 江田島市 沖美町 砲台山森林公園

参加者 川崎 小林ペア 佐伯 佐藤 末原
富田 中道 野呂田 平田 舛田 横路

宇品港からフェリーに乗ると三高港には35分で到着した。港から登山口までの街並みの左右にはミカンや柿が鈴なりにぶら下がっていた。またRCCラジオ沖美送信所の高さにびっくりしながら、てくてくと歩いた。

やがて舗装された登山道を登り始めると、早速植物観察が亀より遅い速度で始まり、途中カニに追い越されていた。しかしこのゆったりした時間のお陰で赤や紫色に輝く見事な実を手にとって観察することができた。特にムベやフユイチゴなどの果実を見つけると子供のようにしゃぎ、笑い声が秋の森に吸い込まれていた。

また樹木の間から「カキ養殖筏」が青く澄み切った水面に浮かび、瀬戸内海特有の景観に出会うと溜息の後は、しばらく無口であった。

やがて宮島砲台跡と同時に出来た標高402mの三高山砲台跡に到着すると一気に独自の解説が始まった。宮島の砲台跡についての事前学習が役に立っていたのである。

帰路は、秋の日差しを浴びながら、若い青年達が畑で苗菊の植え付け作業をしている山村風景に癒されながら、また真っ白い菊に囲まれた「三高の菊発祥之碑」の側を通り抜けると、いつの間にか三高港棧橋に到着していた。やがてその日の夕食には一夜干しのサヨリや新鮮なミカンが食卓を賑わしたことであろう。(中道 勉)

「みせん」次号 39号発行予定

発行日 平成22年3月1日

原稿締切 " 1月末日

皆さんの投稿をお待ちしています

PV10周年記念行事

PVの会は来年6月に設立10周年となります。記念行事の実施案について、昨年からの募集し提案いただいたものが19人延べ24件になりました。

それぞれについて費用、関係官庁への申請等実施の問題点を数度の幹事会で検討した結果、最終的に6月に宮島で写真展を開催することとしました。その内容は

PV10年の活動記録 会員が選んだ新宮島八景

今後種々準備にあたって皆様のご協力をお願いいたします。

その他の提案案件

- ・環境省と国交省共同のフォーラムに参加「広島湾再生」
- ・外部講師を招聘して記念講演・旧会員も呼んで懇親パーティ
- ・さくら、山桜の記念植樹
- ・基金の設立・苗木等などの購入にあてる
- ・シカ対策への協力、シール・ワッペンの作成配布
- ・宮島お気に入り百点選定（景色、建物、名産品・・・）
- ・PV10周年史の編纂発行
- ・一般参加者を募り、宮島一周の客船によるクルージング
- ・厳島神社の神官に話を聞く
- ・会員が自然解説の手法を学び、体験する環境省の自然解説研修を宮島地区で開催
- ・厳島神社の総合的学習会
祈禱・舞楽鑑賞・社務所・宝物館・五重塔・千畳閣
- ・標識の整備、特に岩船岳ルート
- ・鷹ノ巣高砲台跡の整備・登山ルート整備
- ・曼荼羅岩へのルート整備
（類似案件は統合しました）

春の公募観察会

本年度最後の公募観察会を
平成22年3月7日（日）
に実施します
会員の下見は2月27日（土）です。
コースは包ヶ浦～鷹ノ巣高砲台跡で
自然と歴史探訪を予定しています。
詳細は後日連絡します。（観察部会）

編集後記

11月22日の公募観察会は申し込みを多人数断るほどの盛況でした、新聞に写真入で掲載して貰った反響が絶大であっただけでなく、4年前の土石流で甚大な被害を受けた、大聖院ルートの復旧状況に大いなる関心が向いたようです、また散策の途中、随所で会員手作りの工夫をこらした解説・案内も参加者に好評でした。やはり多くの方が参加して、喜んで貰うには、それなりの企画と入念なる準備が肝要だと痛感しました。（足立）

環境省のホームページ

宮島地区PVの会 年間活動計画・「みせん」のバックナンバーが公開されています。
「宮島地区パークボランティアの会」で検索できます。

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

（〒730-0012）

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

（〒739-0505）廿日市市宮島町1162-18

（宮島栈橋2F）